

第1学年 道徳学習指導案

平成24年9月19日

生徒1年A組 20名

指導者 岸本 知直

1 主題名 「目標への強い意志」 内容項目 1-(2)

2 ねらい 希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志を持つようとする。

3 資料名

「私と部活動」

出典：文部省「道徳教育推進指導資料（指導の手引き）1 中学校 読み物資料とその利用」

4 主題設定の理由

中学生の時期は、自分の好むことや価値を認めたものに対しては意欲的に取り組む態度が育ってくる。また、希望と勇気をもって生きる崇高な生き方に憧憬をもつ年代でもある。しかし、障害や困難に直面すると簡単に挫折し物事をあきらめてしまうこともあり、理想どおりにいかない現実には悩み苦しみ、途中で投げ出してしまうこともあったりする。そのように目標を達成できない場合には、挫折感を感じ、自己肯定感を低下させることにもつながることもある。だからこそ、目標を達成した経験を振り返らせたり、日常的な努力で達成できる目標を持たせたりすることが大切となってくる。目標の実現のために、困難や苦しさにも果敢に挑戦し、くじけそうになる自分を励まし、粘り強い努力と精神力でやり抜く態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

本学級の生徒は、全員が部活動に所属し、ほとんどの生徒が自分なりの目標を持って部活動に取り組んでいる。ただ、取り組み方を見ると、部活動に対して意欲的に一生懸命取り組み自分の立てた目標を達成しようとする生徒もいれば、部活動に対して消極的で練習を休みたがるような生徒もいるなど、差が見られる。今までは、部活動の中で中心的な存在ではなかったこともあり、さほどの困難さを感じていなかった生徒も、今後練習量が増えたり、各自の責任感が大きくなるなど、今まで以上に苦しさや困難に出会う場面が増えてくるはずである。だから、途中であきらめることなく、強い意志を持って目標に向かっていかせたいと考えている。

本資料は中学校1年生の筆者が主人公である。不器用な筆者がテニス部に入り、「県大会出場」という目標を目指して努力するが、挫折を機にテニスへの情熱を次第に失っていく。しかし、友人Kの姿や先生の言葉に心を動かされ、再び目標に向かって努力していくようになる。こうした「ぼく」の姿を通して、目標に向かって希望をもって頑張ろうとする姿を、人間の生き方として、共感的に感じ取らせ、「自分も頑張ろう」という心情を深めていきたい。

5. 準備物

・テニスをしている絵 ・資料 ・ワークシート

| | 学習活動 | おもな指示や発問と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
|----|-----------------------------|--|--|
| 導入 | 自分の部活動での目標について振り返る。 | ●「みんなはこんな目標を持って頑張っているのですね」 | ・事前に生徒に書かせた内容を紹介する。 |
| | 資料を範読する。 | | |
| | 「テニスなんか、やめちゃおうか」と思った理由を考える。 | ○筆者が「テニスなんか、やめちゃおうか」と思ったのは、なぜか？ <ul style="list-style-type: none"> ・しんどいから ・練習をしたくないから ・自分の力に限界を感じたから。 ・体が固く不器用だから。 | ・つらく苦しいながらも、目標を持って取り組んでいる筆者の内面を確認する。 |
| | Kに負けた後の筆者の思いを考える。 | ○「本気でテニスをやめよう」と二週間悩んだときの筆者は、どんな気持ちだったのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・もうどうでもいいや。 ・せっかく頑張ったのに、努力しても無駄なんだ。 ・Kの奴が普段と違う攻め方をするから、ぼくは負けたんだ。 | ・マイナスの気持ちが強くなっていったことを確認する。 |
| | 朝練習を再開するときの筆者の思いを考える。 | ◎「さあ、来い。サーブを受けてやろうじゃないか。いくぞ。」とKとの朝練習を再開した筆者は、どんな気持ちだったのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度頑張ってみよう。 ・次はKに勝つぞ。 ・苦しくても逃げるわけにはいかない。 ・いい結果を出すためにやるしかない。 | ・Kに負けた後の感情とは違い、プラスのイメージが強くなっていることに気づかせる。 |
| | 「得がたい石」を範読し、授業の感想や考えたことを書く。 | ○自分の経験などをふまえて、今日の授業で思ったことや考えたことを、自由に書いてみよう。 | ・できる限り自分の経験を振り返るように配慮する。 |

私と部活動

県大会に出場したい

テニスなんか、
やめちゃおうか

- ・体が固く、不器用だから
- ・練習がしんどい。
- ・自分の力の限界。



Kに負ける

- ・もうどうでもいいや。
- ・努力しても無駄なんだ。
- ・Kが普段と違うから：



「さあ、来い」

- ・次はKに勝つぞ。
- ・もう一度頑張るぞ。
- ・苦しくても逃げないぞ。
- ・いい結果を出したい。

